

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第120回学術フォーラム *Forum for Interface Oral Health Science*

なぜヒトは無意識にブラキシズムを行うのか？ 飯田 崇 先生

日本大学松戸歯学部 口腔健康科学講座
顎口腔機能治療学分野 専任講師

2020年1月28日（火）17:30～18:45
歯学研究科大会議室（C棟1階）

ブラキシズムは歯のクレンチングまたはグライディングおよび（または）顎の前方への突出といった動きを特徴として繰り返し行う顎運動であり、睡眠中に生じる睡眠時ブラキシズムと覚醒中に生じる覚醒時ブラキシズムの2つに分類される。健常者ではブラキシズムは疾患ではなく習慣（行動）とみなされるが、重度なブラキシズムは口腔顔面痛、咬合性外傷、失活歯の歯根破折、補綴装置の破壊といった歯科的問題を引き起こす因子の1つと示唆されている。しかしながら、ブラキシズムの発現機序・病態生理はこれまでに解明されておらず、臨床現場では対処療法による対応が実情である。過去の疫学研究より睡眠時ブラキシズムのリスク因子は骨格や咬合といった末梢性の因子は主要な要因ではなく、主に中枢性の要因によって引き起こされていることが示唆されている。演者はこれまでに「ヒトがなぜ無意識下でブラキシズムを生じるか」という問いに対して、そのメカニズムを中枢から解明する研究を進めてきた。今回はこれまでに進めてきた研究から得られた知見、その知見から考えられる将来的な展望について紹介する。

連絡先: 第120回モデレーター 佐々木 啓一, 小川 徹(口腔システム補綴学分野)